

避難されている皆様へ…!

● 私たち地域同窓会の皆さんからの心も…!

10月も後半に入り、朝夕はめっきりと寒くなってまいりました。昨年10月31日に植栽を行った春日部地区浦高会創立10周年事業「春日部麗しの杜づくり」も



丸1年が経ち、公園エントランスに植えた記念樹のヤマザクラも葉を落として冬支度に入っていました。

【写真①:10月20日の公園の様子、右手がヤマザクラ】

また、築山に植えたシャラやコナラなどの落葉樹も、夏の間けんめに栄養を作っていた葉を落としています。残念ながらイロハモ



ミジの紅葉はまだ先のようです。【写真②:公園築山】

さて、9月の春日部地区浦高会総会において出席された皆様からお預かりした「東日本大震災における被災者の皆様への支援金」(35,000円)は9月13日に春日部市社会福祉協議会に寄付をさせていただきましたが、私たちの募金も含めて10月18日には春日部市内に避難されていらっしゃる方々に「支援金」として有効に渡されました。

*

■東日本大震災：避難者支援金、商品券で贈呈——春日部市民の募金／埼玉

【栗原一郎／毎日新聞／10月19日】

東日本大震災で被災し春日部市内で避難生活を送る人のための「支援金贈呈式」が18日、同市役所であった。同市と市社会福祉協議会が進めている募金活動に市民らから寄せられた222万円のうち210万円を商品券に換えて贈る。

式には、福島県富岡町の中野貴文さん(41)ら37世帯が出席した。石川良三市長は「生活で不自由なことは遠慮なく伝えてください」、時田美濃吉・同協議会会長が「(支援金を)慣れない地での不自由な生活の一助にしていだければ」とそれぞれ激励した。

原発の関連会社に勤務していた中野さんは「いつ富岡町に戻れるのか、その展望がない。もう少しはつきりすればどのような生活を送るかの選択ができるのだが」と話した。

商品券は市内約650店舗で使える。世帯主に1万円、家族1人あたり5000円ずつが贈られる。同市内に避難している住民は116世帯288人。市などによる募金活動は来年3月末まで行われる。

*

浦和高校同窓会からは100万円の義援金を日本赤十字に贈ったそうですが、私たち地域同窓会総会の出席者30名程度の気持ちばかりの募金であることや、身近に避難されて来られ、お困りの方々に役立てていただきたいとの願いから、社会福祉協議会を通じた今回の「支援金」になりました。

春日部市に避難されていらっしゃる方の多くは福島原発関係で自宅があっても戻ることのできない方が多く、中には宮城県にお住まいで津波のためにすべての財産を失ってしまったという方もいらっしゃるようです。来年3月まで、機会があればまた皆様のご支援をお願いしたいと思います。



さて川久保公園と古利根川は、すっかり秋が進んでいます【写真③】。お隣の野田市では、根本崇・市長さんが国

の特別天然記念物のコウノトリが生息できる里づくりを進められています。来年の秋からペアで飼育される予定だそうです。そんなコウノトリが放鳥される頃までに、川久保公園や古利根川が冬の餌場になれるよう「杜」を育てていきたいと思ひます。コウノトリだけでなく、さまざまな場面で「春日部市」が選ばれるよう内面から磨いていきましょう。

*

■コウノトリの里 野田市が整備計画案 生物多様性の象徴に 来秋からペアを飼育へ

国の特別天然記念物のコウノトリが生息できる環境づくりに取り組む野田市は、市南部の江川地区に「コウノトリの里」を整備するため、実施計画案を作成した。来年秋から一つがい以上の飼育を始め、繁殖や放鳥を目指す。市は生物多様性や自然保護の象徴になり、エコツーリズムなどの経済効果も期待できるとしている。〈…以下略〉 (川田栄)

【東京新聞・千葉版／9月28日】